



題字：鳩山威一郎

機関紙「友愛」

発行所

(一財)日本友愛協会

〒112-0002 東京都文京区小石川 1-10-13 小石川文京ビル2階

TEL:03-5684-3188

FAX:03-5684-3186

E-mail:yuai@yuaikyoukai.com

http://yuaikyoukai.com

発行人：川手正一郎

編集人：鶴巻克雄

隔月1回 10日発行

年会費

2,000円

一般財団法人

日本友愛協会発足

四月一日移行登記完了

鳩山邦夫理事長抱負を語る



はじめに

兄・由紀夫とは党派を異にして、政治的には正反対の立場に立つことが多くあるが、祖父・一郎、祖母・薫、父・威一郎から引き継いできた「友愛」に関しては、姉・和子ともども三人で、いつ、いかなる状況でも共同行動をとることに完全合意している。

したがって理事長も兄と二年交代でつとめる約束となっている。たまたま、この四月、友愛は「一般財団法人日本友愛協会」となり、私が一般財団としての初代理事長に就任した形なのである。一般財団法人となり、初めて発行する機関誌「友愛」に巻頭号を書くことは、実に責任も重く、名誉なことと感じている。

まずは、東北関東大震災で亡くなられた方々のご冥福を心からお祈り致します。また、被災され、言葉にならぬほどの苦痛と不安の中でお暮らしの皆様方に衷心よりお見舞い申し上げます。さらに、政府の不手際による人災という側面もある原発の事故により、避難を強いられたり、仕事を失ったり、不安感の中で眠れぬ夜をお過ごしの方々の心のお内をお察し申し上げる次第です。

私は高い知名度を得ることができず、むしろ知名度は低下傾向にあるようだ。

鳩山家の知名度は非常に高く、鳩山一郎と友愛精神の関係についても、年輩者や有識者での知悉度は意外と高い。しかし団体としての友愛は、知名度がゼロに近い。その存在は全く知られていない。ライオンズやロータリー、ボイスアウトやガールスカウトは、いわば知名度に頼って活動している感がある。知られているから人々も関心を寄せ、新入会員も入ってくる。だから会費収入も維持されている。

私の抱負

友愛は宗教ではなく、もちろん営利団体でもない。政治的理想を語り、会員が政治家であったり(私たち兄弟のよう)、政治家を目指すことも多くあるけれども、政治団体にもなりえない。まさに一般財団法人という善意とボランティア精神に基づき、相互尊重、相互理解、相互扶助を実践する団体なのだ。そこに問題のむずかしさが存在している。つまり友愛青年同志会から友愛青年連盟を経て今日に至るまで、団体としての友愛

私自身は、東北関東大震災で亡くなられた方々のご冥福を心からお祈り致します。また、被災され、言葉にならぬほどの苦痛と不安の中でお暮らしの皆様方に衷心よりお見舞い申し上げます。さらに、政府の不手際による人災という側面もある原発の事故により、避難を強いられたり、仕事を失ったり、不安感の中で眠れぬ夜をお過ごしの方々の心のお内をお察し申し上げる次第です。

ここまでできるかは自信をもって言えないが、日本友愛協会の知名度を上げ、会員増強を図り、会費収入による財政基盤の確立に全力投球していこうと考えている。ほんの一握りの方々からの寄付や援助に頼ってはいれば、いずれ友愛協会は消滅していくだろう。

友愛の現代的意義

石田勝之君(現代識士)、

績を後世に伝えていく責任を私たちは持っている。しかし私たちはカレルギー教の信者や鳩山一郎教の信者ではなく、彼らの思想と精神を受け継ぎながら、それを実践していくかならばならぬ。友愛運動に現代的意義を加えねば何ら意味をなさないといえよう。

「友愛運動っていいね」「会員になり運動に参加すると人格が円満になるらしい」「友愛に入ると友人が増えて、しかも相互尊重の精神の下で、仕事も順調になるらしい」「ボランティア運動や国際交流でも友愛は一流だね」という類の話が広まっていき、そんな話を聞いた人が友愛に興味を持ち、カレルギー伯や鳩山一郎を知り、友愛思想を勉強しようとする—そんな形を追い求めていきたい。

吉川貴盛君(前代識士)、そして大実業家に成長した対馬義彦君らが友愛青年連盟の現役であったころ、つまり私が二十八歳から三十歳ぐらいだったころ、友愛は実践し行動する団体なのか、それとも黙々と自己研鑽する所なのかという大議論を彼らとしばしばおこなった。結論は両方とも大切だということに落ち着いていったと記憶する。しかし、あれから三十年以上の月日が流れた今、あえていうならば、友愛は実践し行動する団体でなくてはならぬと確信をもっている。自己研鑽を積んだ結果、仕事で成功したり、政治家として成長したり、多くの人々から信頼されたりして、初めて意味がある。研鑽を積みつつ、積んだものを即実行に移す。そういう形が望まれるのだ。日本友愛協会を実践し、行動する団体にしたいたい私はつくづく思う。

何を実践し行動するか

友愛の運動に加わる会員は、それぞれ友愛思想に基づいて行動していくだろう。「あの人は実にいい人だ。信頼して裏切られることがない。そして友人が多く、よくまとまっている。聞くところによると、彼は日本友愛協会のメンバーとして活躍しているようだ」そんな話がこれから増えていくことを期待したい。

しかし日本友愛協会が団体である以上、しかも一般財団法人であるのだから、団体として実践していく分野を、ある程度、確立しておくべきである。

まず国際交流であるが、友愛は従来から東南アジアや中国に強かった。もちろんドイツ、オーストリア等の西欧諸国との交流も続いているが、これからは明確にアジアの時代、アジアの世紀になっていくのだから、今までより以上に徹底してアジア諸国との青年交流を活性化していきたい。それが定着すれば、世間の友愛を見る目にも変化が起き、知名度の上昇にもつながるだろう。兄から私が引き継いだものに日本・ロシア協会会長職というのがあつた。日口間の青年交流は、全日本的にみても極めて貧弱である。それだけに開拓意欲が湧く。鳩山一郎のロシアでの評価が高いことも有利な条件だ。友愛は日口交流の先頭に立つべきだと思

くのだから、今までより以上に徹底してアジア諸国との青年交流を活性化していきたい。それが定着すれば、世間の友愛を見る目にも変化が起き、知名度の上昇にもつながるだろう。兄から私が引き継いだものに日本・ロシア協会会長職というのがあつた。日口間の青年交流は、全日本的にみても極めて貧弱である。それだけに開拓意欲が湧く。鳩山一郎のロシアでの評価が高いことも有利な条件だ。友愛は日口交流の先頭に立つべきだと思

友愛は創立以来、さまざまなボランティア活動をしてきた。映画館のない僻地へ、映画機材を運んで地域の人たちに見せて歩いた話は、何度聞いても感動的で、先輩たちの偉業と、その発想力に頭が下る思いがする。最近では中国での植林に参加し続けている。最大の課題であるのだから、これも非常に有効なボランティア活動であることはまちがいない。

さて、どんなボランティア活動を新規に始めたいのだろうか。地味でコツコツと活動する真の奉仕活動であることは理解する。しかし、世間をアツと驚かしたり、感動させたり、注目させる活動をしていこうと、友愛の知名度不足を解消させたい。みなさんの知恵を絞って、新規のすばらしい分野を提案していただきたいと思う。「友愛はすばらしい実践をする」と言われようではないか。

友愛と政治

友愛出身の政治家は数多い。彼らは友愛を利用して政治家になったのかといえれば、答えは明確にNOである。友愛は巨大な集票マシンではないのだから。友愛思想を学び実践していくプロセスで、「社会や国家に貢献できることを自分自身でやってみたい」と思い始め、代議士や地方政治家を目指すようになったのだと思う。そして、自然と政界の友愛人脈のようなものが生まれ、友愛メンバーの政治志向がより高まったのである。

日本友愛協会を政治団体化しては絶対いけない。友愛は社会的影響力を高めていくべき団体であつて、政治的影響力は二次的なものである。しかし、友愛の会員として実践活動に参加していく中で、兄や私の姿にも触れる機会が多くなり、「では、自分も友愛社会実現の為に頑張ってみよう」と政治家志望になっていくことは大歓迎である。鳩山友愛塾は、それを狙った面も少々あつただろう。いずれ友愛塾を復活させたいと思う。終わりに

脱カレルギー伯、脱鳩山一郎などと言うつもりはない。しかし、友愛活動に参加して、カレルギー伯と鳩山一郎について学んでもらうだけで、その後の実践活動に何ら結びつかないというのでは悲しすぎる。結論からいって、友愛はもつと力を付けるべきだ。もつと有名になり、もつと強力がなければならぬ。そのためには、今までの実践活動をさらに強力にすること、世間をアツと言わせる活動をする、それを当面の目標にしていきたい。衆議院議員・日本友愛協会理事長 鳩山邦夫

友愛は創立以来、さまざまなボランティア活動をしてきた。映画館のない僻地へ、映画機材を運んで地域の人たちに見せて歩いた話は、何度聞いても感動的で、先輩たちの偉業と、その発想力に頭が下る思いがする。最近では中国での植林に参加し続けている。最大の課題であるのだから、これも非常に有効なボランティア活動であることはまちがいない。

友愛は創立以来、さまざまなボランティア活動をしてきた。映画館のない僻地へ、映画機材を運んで地域の人たちに見せて歩いた話は、何度聞いても感動的で、先輩たちの偉業と、その発想力に頭が下る思いがする。最近では中国での植林に参加し続けている。最大の課題であるのだから、これも非常に有効なボランティア活動であることはまちがいない。

さて、どんなボランティア活動を新規に始めたいのだろうか。地味でコツコツと活動する真の奉仕活動であることは理解する。しかし、世間をアツと驚かしたり、感動させたり、注目させる活動をしていこうと、友愛の知名度不足を解消させたい。みなさんの知恵を絞って、新規のすばらしい分野を提案していただきたいと思う。「友愛はすばらしい実践をする」と言われようではないか。

友愛と政治

友愛出身の政治家は数多い。彼らは友愛を利用して政治家になったのかといえれば、答えは明確にNOである。友愛は巨大な集票マシンではないのだから。友愛思想を学び実践していくプロセスで、「社会や国家に貢献できることを自分自身でやってみたい」と思い始め、代議士や地方政治家を目指すようになったのだと思う。そして、自然と政界の友愛人脈のようなものが生まれ、友愛メンバーの政治志向がより高まったのである。

日本友愛協会を政治団体化しては絶対いけない。友愛は社会的影響力を高めていくべき団体であつて、政治的影響力は二次的なものである。しかし、友愛の会員として実践活動に参加していく中で、兄や私の姿にも触れる機会が多くなり、「では、自分も友愛社会実現の為に頑張ってみよう」と政治家志望になっていくことは大歓迎である。鳩山友愛塾は、それを狙った面も少々あつただろう。いずれ友愛塾を復活させたいと思う。終わりに

脱カレルギー伯、脱鳩山一郎などと言うつもりはない。しかし、友愛活動に参加して、カレルギー伯と鳩山一郎について学んでもらうだけで、その後の実践活動に何ら結びつかないというのでは悲しすぎる。結論からいって、友愛はもつと力を付けるべきだ。もつと有名になり、もつと強力がなければならぬ。そのためには、今までの実践活動をさらに強力にすること、世間をアツと言わせる活動をする、それを当面の目標にしていきたい。衆議院議員・日本友愛協会理事長 鳩山邦夫

友愛は創立以来、さまざまなボランティア活動をしてきた。映画館のない僻地へ、映画機材を運んで地域の人たちに見せて歩いた話は、何度聞いても感動的で、先輩たちの偉業と、その発想力に頭が下る思いがする。最近では中国での植林に参加し続けている。最大の課題であるのだから、これも非常に有効なボランティア活動であることはまちがいない。

友愛は創立以来、さまざまなボランティア活動をしてきた。映画館のない僻地へ、映画機材を運んで地域の人たちに見せて歩いた話は、何度聞いても感動的で、先輩たちの偉業と、その発想力に頭が下る思いがする。最近では中国での植林に参加し続けている。最大の課題であるのだから、これも非常に有効なボランティア活動であることはまちがいない。

さて、どんなボランティア活動を新規に始めたいのだろうか。地味でコツコツと活動する真の奉仕活動であることは理解する。しかし、世間をアツと驚かしたり、感動させたり、注目させる活動をしていこうと、友愛の知名度不足を解消させたい。みなさんの知恵を絞って、新規のすばらしい分野を提案していただきたいと思う。「友愛はすばらしい実践をする」と言われようではないか。

友愛と政治

友愛出身の政治家は数多い。彼らは友愛を利用して政治家になったのかといえれば、答えは明確にNOである。友愛は巨大な集票マシンではないのだから。友愛思想を学び実践していくプロセスで、「社会や国家に貢献できることを自分自身でやってみたい」と思い始め、代議士や地方政治家を目指すようになったのだと思う。そして、自然と政界の友愛人脈のようなものが生まれ、友愛メンバーの政治志向がより高まったのである。

日本友愛協会を政治団体化しては絶対いけない。友愛は社会的影響力を高めていくべき団体であつて、政治的影響力は二次的なものである。しかし、友愛の会員として実践活動に参加していく中で、兄や私の姿にも触れる機会が多くなり、「では、自分も友愛社会実現の為に頑張ってみよう」と政治家志望になっていくことは大歓迎である。鳩山友愛塾は、それを狙った面も少々あつただろう。いずれ友愛塾を復活させたいと思う。終わりに

脱カレルギー伯、脱鳩山一郎などと言うつもりはない。しかし、友愛活動に参加して、カレルギー伯と鳩山一郎について学んでもらうだけで、その後の実践活動に何ら結びつかないというのでは悲しすぎる。結論からいって、友愛はもつと力を付けるべきだ。もつと有名になり、もつと強力がなければならぬ。そのためには、今までの実践活動をさらに強力にすること、世間をアツと言わせる活動をする、それを当面の目標にしていきたい。衆議院議員・日本友愛協会理事長 鳩山邦夫

友愛は創立以来、さまざまなボランティア活動をしてきた。映画館のない僻地へ、映画機材を運んで地域の人たちに見せて歩いた話は、何度聞いても感動的で、先輩たちの偉業と、その発想力に頭が下る思いがする。最近では中国での植林に参加し続けている。最大の課題であるのだから、これも非常に有効なボランティア活動であることはまちがいない。

東日本大震災で被害にあわれた皆様に、心よりお見舞いを申し上げます。 被災地の日も早い復興、皆様のご健康を、お祈りいたしております。

日本友愛協会 第一回理事会・評議員会開催 平成二十三年度事業計画・予算可決

平成二十三年四月八日(金)友愛サロンに於いて第一回理事会並びに第一回評議員会が開催された。主たる議題である平成二十三年度事業計画及び平成二十三年度予算は、理事会の承認を受けた後、評議員会で協議され、全会一致で承認、可決された。

冒頭、新法人への移行に関して報告があり、平成二十三年四月一日登記申請受理、登記事務完了は十二日となる旨が告げられた。

午前十時開催の理事会では、鳩山邦夫理事長欠席のため、鳩山由紀夫副理事長が議長に選任され、議事が進行した。

出席理事(鳩山由紀夫/川手正一郎/鶴巻克雄/奥田吉郎/武田記念男・敬称略)で協議を行い、全会一致で業務執行理事を選任した。

業務執行理事・副理事長 鳩山由紀夫/業務執行理事・常務理事・事務局長 川手正一郎/業務執行理事・常務理事 鶴巻克雄

また鳩山安子前名誉会長に、新法人に於ける名誉会長職の推戴が、全会一致で決議された。併せて若干名の参与に関しても協議が行われ、原案どおり決議された。

理事会運営規程の改正については、定款との整合性を保つ意味から、理事会開催の一週間前までの通知、理事会の年二回以上開催という内容に改正された。

この他、理事をメンバーとし、監事をオブザーバーとする運営会議を月一回程度開催し、日常的な業務について協議し、執行してゆく旨が全会一致で承認可決された。

引き続き、午後十一時より、評議員会が開催され、登記についての報告が行われた後、出席評議員(井上和子/萩原直三/芳賀大輔/福田八州雄/谷藤悦史/小川巧次/大川米子・敬称略)によって、評議員長の選任が行われ、井上和子評議員が全会一致で選任された。

選任を受け、井上和子評議員長が議事進行を務めた。理事会の報告を受け、平成二十三年度事業計画並びに予算が協議され、全会一致で原案どおり可決承認された。

評議員会には、鳩山由紀夫、川手正一郎、鶴巻克雄、奥田吉郎、武田記念男の各理事及び奥住壽、長田正太郎両監事が出席した。

理事会・評議員会終了後、永年に亘り(財)日本友愛青年協会の発展に尽力した各位に、鳩山安子名誉会長、鳩山由紀夫理事長、鳩山邦夫副理事長、井上和子副理事長より表彰状、感謝状が贈られた。



永年の労に、表彰状、感謝状が贈られた



新役員が揃って記念撮影



第一回評議員会。新たなスタート

東日本大震災

被災地で体験したこと

— 気仙沼へ行くことを決心して行動 —

長山安隆

突然襲った恐怖

三月十一日 午後二時四十分、それは何の前触れも無く起こりました。

仕事の打合せ中、突然ガタガタと揺れはじめました。すぐにおさまると思いましたが、

それに比べて、揺れが激しい揺れに変化していききました。

車ですぐに会社へ向かいました。運転中に車窓から見る景色は、

外に避難し、看板が落ちていた店舗があり、停電により信号機が消えている所が、

たくさんあり、地震の凄まじさを物語っていました。

会社や自宅に何度も電話をしましたが一向に繋がらない状況に、

私はただ事ではない、と恐怖心を抑えながら会社に戻りました。

その後、ニュースを見てみると私の想像をはるかに超えた悲惨な出来事が東北地方を中心に各県で起こっていることを知りました。

特に三陸地方を一带とする宮城・岩手各沿岸部の津波による被害は溢れる涙を抑えきれない程の悲惨さが映し出されていました。

行動を起こす決心

しかし、被災地の状況が刻々と悪化し続けるのを報道等で見るにつけ、

具体的な行動をしなければいけないという気持ちを抑え切れませんでした。

早速、知人を通して何とか気仙沼の市議会議員と連絡を取ることが出来まし

た。彼の話では、圧倒的に日用品が足りないと言っており、

特に関東圏で紹介されている小島公民館等の避難所、

また輸送手段の無い離れ小島、そして幸いにも自宅は流されなかつたが避難所に行かず自宅

で待機をしている住民の方々、本当に多くの方々が困っていると言った事を知りました。

その中で「具体的に必要な物は何か」と聞くと、歯ブラシ・下着・生理用品等の日用品がほしいということでした。

早速私は送りますと伝えたところ「手元に届くのがいつになるかわからないので、

できれば直接届けてもらいたい」と、悲痛な叫びにも似た答えが返ってきました。

一関でと約束しました。

世の中が買いだめに走る風潮の中、物資の手配、車の手配、燃料の手配にと正直苦勞しました。

しかし約束をした以上は必ず守らなければならぬという思いで必死でした。

なかには、その話を聞いて快く私の元へ物資を届けてくれる仲間もいました。

ボランティアで行くからには自分達の食料も含め、現地の人に迷惑をかけられない思い、

決して物見遊山にならないようにと心に誓い現地へ出発しました。

高速道路は開通していましたが、

何時につくかわからないので夕方六時に出発をしました。

走行中、福島県内の道路は、応急処置後とはいえ、かなりの衝撃を身体に感じる状況でした。

幸いに大きな問題もなく無事一関へ着きましたが、時計を見ると時間は日付が変わった深夜でした。

車の中で一夜を過ごし、翌朝八時に現地の市議会議員の小野寺さんと合流しました。

野寺さんに同行してもらい気仙沼へ向かいました。映像では伝わらない惨状、

気仙沼に入り、津波で流された現地に降り立つと、

今までの景色とは一変し瓦礫の山々が目に飛び込んできました。

同時に何とも言えない異臭が漂い、報道等では伝わらない悲惨さを肌身に感じました。

私はその動揺を抑えながら物資を配り始めました。

小さな公民館、気仙沼から一日一回しか渡れない大島、

孤立している老人ホーム等、計六箇所を一日かけて回りました。

公民館では皆が少ない食料を持ち寄り炊き出しを行ない、

体育館では肩を寄せ合い励ましながら休んでいる姿が見られました。

「遠い所からわざわざ有り難う」と涙ながらに敬礼を言ってくれたおばあちゃん、

家族、自宅が津波によって流されても尚、気丈に振る舞っているおじいちゃん、

チョコレットを受け取った手がアカギレになっているにもかかわらず笑顔で「ありがとう」と言ってくれた小さな女の子、

避難所へ物資を届ける車一台一台に向かっておじきをして

いる地元青年、これら被災者の方々を見て本当に来て良かったと感じました。

誇りに思える人々、町の橋は流され、家も流され、

そして何よりも尊い命まで流され、被災者の方々はどん底に突き落とされた状況の中、

それでも皆様の目はしっかりと明日へと向かっていました。

その目をそしてその笑顔を決して諦めさせてはいけません。

月並みの言葉は、たやすくかけられる状態ではありません。本心に国民一人一人

が今、自分に何が出来ることがあるか、

自分が行なうべき事は小さな事ですが、

皆で力をあわせれば被災者にきつと届くと信じ、

今日よりも明日が輝く日がくることを願ってやみません。

私は被災地の方々を見て誇りに思います。日本の底力をそして友愛精神を今こそ見せる時だと強く感じました。



沿岸より内陸へ二キロの地点で撮影。津波は数キロにわたって猛威をふるい甚大な被害をもたらした



内陸部にも津波が押し寄せ、フェンスが瓦礫を堰き止めた。沿岸部では、全てが流された

第十八次植林訪中実施

福建省アモイ市同安区で地元学生と植樹

「二〇一一年国際森林年」協力登録事業

地元メディアも注目 赤土の山が緑の山に変わる



2011・国際森林年

2011年は、国連の定める「国際森林年」(International Year of Forests)です。国連総会決議により、国際森林年では、現在・未来の世代のため、全てのタイプの森林の持続可能な森林経営、保全、持続可能な開発を強化することについて、あらゆるレベルでの認識を高めるよう努力すべきとされています。

また、国連は加盟国が国際森林年に関連した活動を促進することを奨励しており、我が国でも各地で様々な取組が行われる事が期待されています。～林野庁ホームページより～



国際森林年に植えた木々が、皆さんを自然と国際関係に目を向ける絆となりますと川手団長が挨拶



アモイ海洋大学の学生等と一緒に植樹。地元の大学生、高校生も参加して次代に繋がる国際交流の場が



赤土がむき出しになった山肌。この地が緑でおおわれる日が楽しみである



国際森林年のロゴポスターを手に、植樹記念碑の前で。訪中団一行



参加の学生が国旗を振って植林活動への期待、喜びを表現。訪中団へ「大切に育てます」との約束を



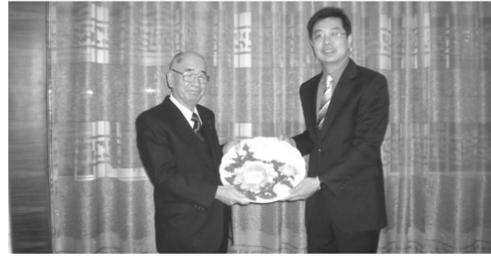
この地に一番適している樹木と選ばれたモガシを始め、金木犀、低木杉などを植樹



地元の中学生、高校生、大学生など、次代を担う若者が郷土の未来を目指して植樹に参加した



一緒に写真写して！と気さくで人なつっこい学生達。ワイワイニコニコ大騒ぎで写真を何枚も撮影



友好の記念に、地元の工芸品が贈られた。陶器で花びらの一枚一枚を手作りした見事な牡丹の飾り皿



アモイ市中心部より見る市内の夜景。立体交差、高層ビル、中心部は経済特区ならではの発展振りだ

三月二日、寒さの残る日本を後に、亜熱帯地域にあたるアモイ市へ。スーツケースの中には、夏服を用意する。アモイ市は福建省南部に位置し、中国五大経済特区でもあり、副省级市(自治が他の省、市とは際違って異なる程確立されている)にも指定されており、北京、上海とはまた違った活性振りを見せる豊かな市である。しかし、中国の経済状況の常で、都市部と郊外部との経済格差は大きく、今回の植林地も、アモイ市中心部からバスで九〇分ほどの位置にあるが、現地の労働賃金は一日八五元(約千四百円)という状況である。それでも他の省に比べれば格段に高給で、十七次訪中で訪れた湖北省シキ県では一日四五元(約六百円)であった。

到着した日の午後、市内を見学、亜熱帯地域ならではのサポテン公園には、色とりどりのサポテンの花が咲いていた。

夜は、福建省、アモイ市双方の長を始め、関係各位が参加しての歓迎会が開催された。

第十一次植林訪中で訪れた際、文化スポーツ年の事業として、けん玉ペインティング及び技能コンテストを開催、けん玉を紹介、披露したことから、以来けん玉を練習していたというアモイ市青年連合の人々から、こんなに上手になったと、けん玉の技の披露があるなど、和やかな交流の時間が流れた。けん玉を通して、思い出や出来事を共有することが出来た。本当に交流とは、こういう状況を言うのだと体感した。

最後に、当地の名産工芸品である、陶器で出来た見事な牡丹の飾り皿が川手団長に贈られた。

翌日、植林現場へ。市街地を離れしばらくすると赤土のむき出しになった山肌が見えてきた。大雨が降れば流土は免れない状態である。バスが止まり、ここが今回の植林地だと聞き、大いに納得した。このままでは、環境破壊が進むことは間違いなく、赤土の山が緑に覆われる日を頭に描いて、一本一本苗を植えた。樹木は、現地調達され、環境に適したモガシなどが選ばれていた。地元の学生も大勢参加し、川手団長の挨拶に、うなずきながら聞き入っていた。「これから中国の発展を信じて、そのためにも自然を大事にしましょう」との言葉に、大きな拍手が起こった。

舞台の横にも配された、国際森林年のロゴのポスターをかき出した。自分たちの活動の記念でもあるからとせがまれた。全員には回らないので、順に手にして写真撮影を行った。皆人なつっこい笑顔で、順に自分のカメラを取り出し、何度も顔を赤らめて記念撮影。緑を介しての国際交流を実感した。(羽中田記)



アモイ市の代表的な新聞の一面を飾った植林活動。参加の栗原さん(写真中央)、山崎さん(写真右、腕の奥)の植林活動もカラー写真で

「言葉」と「音楽」の融合

小島芙美子

ウィーンでのコンサートを終えて



幻想的な雰囲気のある演奏会場。歴史ある光に包まれて

二〇一一年三月十六日から約二週間、ウィーンでの研修旅行に行きつて参りました。昨年の夏まで一年間、交換留学生としてウィーンで学んでいた私にとって、半年ぶりの訪問・滞在は、夢のような日々となりました。コンクールを終えてからの三か月間、本場に待ち遠しい毎日でした。

しかし、出発直前に起きた東日本大震災……。未曾有の事態に日本全体が混乱する中、ウィーンまで無事に行くことができるのか、そして、このような状態の中、日本を離れることに迷いがあつたのも正直な気持ちでした。出発当日、飛行機が一〇時間以上遅れ、到着が午前三時になるというアクシデントもありました。ところが、明け方に到着したホテルには、「今回の演奏会を、日本へのチャリティー・コンサートに変更したい」という、大変に嬉しいお手紙が届いていました。何とも言えない、重苦しい気持ちを引きずるよ

様に変わりました。イタリア人のピアニスト、Benjaminとの伴奏合わせは、日程の都合もあり、ほぼ一回という短い時間の中でした。しかし、彼女と一緒に音楽を作りあげていく作業は、とても充実した楽しい時間でした。特に彼女は、プログラムに入っていた日本歌曲を、とても愛してくださいました。彼女は、今回のプログラム曲を受け取った時点で、日本語の分かる、知り合いのイタリア人に、歌詞の内容を翻訳してもらったのだそうです。日本の「言葉」と「音楽」の持つ、その独特な世界観を、とても丁寧に、繊細に表現しようと取り組んでくださいました。それは、コンサートに聴きにい

入らせてくださった現地の方々が、日本歌曲を大変に気に入ってくださり、受け入れてくださったことから、とても嬉しく、何より誇りに思いました。そして、「音楽に国境はない」ということを、改めて深く感じる事ができました。演奏会当日は、立ち見が出るほどの大変多くのお客

様がいらしてくださいました。私が留学時に習った先生方、お世話になった方々、そして友人たちも大勢駆けつけてくれました。今回、私が演奏したプログラムには、一年間の留学時に学んだ曲も多く入れました。その曲をふたたび、このウィーンの地で、それも、このような素晴らしい演奏会で演奏できたこと、本当に幸せな思いでいっぱいでした。私をウィーン研修旅行へ行かせてくださった、日本友愛青年協会の皆様、姉妹団体であるオーストリア勤労青年連盟の皆様、そして、私をいつも支えて下さっているすべての方々に、この場をお借りして心からの感謝の気持ちを伝えたく思います。この貴重な

体験を糧に、いつの日か、さらに心温かい演奏のできる歌い手となるよう、さらなる精進をしていきたいと思えます。本当にありがとうございました。最後に、友愛ドイツ歌曲(リート)コンクールの益々のご発展をお祈りしています。(第21回友愛リートコンクール第一位受賞)

も、まるで映像を見ているかのような感覚にさせる程の、筆者の濃くまた内容の詰まった上での展開の速い筆致に、頁をめくる手が進み、まるでゼロ戦に同乗しているかのような臨場感と息遣いを感じた。

作品の構成そのものは、二六歳の二トである男性が、姉と共に特攻隊員として散った祖父の存在を、戦友会である水交会を基に生き残りの人達を訪ね歩き、数名から回顧談を聞き出す形で祖父・宮部久蔵の生き方、人物像、戦闘模様を浮き上がらせていく展開が軸になっている。

友愛 ほんだな

『永遠の0』 百田尚樹 著

文庫版：592頁／講談社文庫：876円(税別)

著者は戦争を知らない世代であるが、作品の中に多くの参考文献と、史実を調べて基にした要素や事実を散りばめ、厚みのある作品に仕上げている。

戦争を知らない若い世代が読めば、この一冊で沢山の物語を感じ取るであろうし、また何らかの形で戦争を体験している世代が読めば、異論や同感を感じながらも何か呼び覚まされるものかもしれない。

裏話がある。それほど読者の心をつかむ、宮部久蔵の空のサムライの姿が琴線に触れる。特攻隊は今日的な意味と感覚で、テロリストであったのだろうか、という問いかけがあつたが、私はそれには異論を覚える。

あの当時の時代の物事の国の存亡の危機に包まれて、当時の人々はやむにやまれない、純粋に大切なものを守るため言語に絶する断腸の思いで散っていったのであり、作品中においても元特攻隊員に若い新聞記者がテロリストだと食ってかかり、当時の精神が理解されない怒りに震える場面が出てくるが、特攻隊員をテロリストと見てしまうと信念を以て散っていった多くの特攻隊員は浮かばれないだろう。

この作品には初版の後、全国の書店店員が口コミで広め、主體的に陳列し時間をかけて評価が浸透していきロングランになったという

作品中の回顧談に「無謀というか、命しらずの作戦をいっばいとっているのよね。ガダルカナルもそうだし、ニューギニアの戦いもそうだし、マリアナ沖海戦もレイテ沖海戦もそう。有名なインパールもそう。でもね、ここで忘れちゃいけないのは、これらの作戦を考えた大本営や軍令部の人たちにあっては、自分が死ぬ心配が一切ない作戦だったことよ」とあり、また「名もない人たちはいつも

一所懸命に頑張っている。この国はそんな人たちが支えられてるんだと思う。あの戦争も、兵や下士官は本当によく戦ったと思う。戦争でよく戦うことがいいことなのかどうかは別に、彼らは自分の任務を全うした」「みんな国のために懸命に戦ったのね」という作品中の両箇所が対照的に印象に残る。

今日、飽食に溺れまた、学級崩壊や児童虐待等に見られるように墮落した時代状況を呈しているが、当時、選択の余地もなく逝った多くの特攻隊員や戦死した人々が今の世の中をどう思っているかを感じてみる。

読後に清涼な風が吹き抜けた、珠玉の一冊である。可能なら映像にして欲しい。映画化される事を願う。そんな一冊である。

木村 正治 (鳩山友愛塾修了生・日本友愛協会評議員選考委員・東大阪市議会議員)

木村 正治 (鳩山友愛塾修了生・日本友愛協会評議員選考委員・東大阪市議会議員)

木村 正治 (鳩山友愛塾修了生・日本友愛協会評議員選考委員・東大阪市議会議員)

時事川柳 服部迪夫 作

「あの人には当事者意識がない」というように使われる場合は、当事者であるにも拘わらずその責務を正しく認識していない者に対して使われる。このような場合は、その責務の程度について、当事者本人の認識と他者のそれとの間にズレが生じている状態なのである。

したがって「当事者意識」といっても他者の認識との関係で相対的に決せられるのである。(GO)

◆新法人最初の「友愛」をお届けします。新緑の五月、緑は再び萌えている。しかし、東日本大震災被災地の方々に思うと、心の底から晴れ晴れという訳にはいかない。どれ程の凄まじい現実の中で暮らしておられるのか。せめて新緑が心とませ、芽吹きが復興への希望と繋がって欲しい。避難所で暮らす方々、現地で働く方々の健康を心からお祈りします。(も)



O J A B シュスラー会長(写真右)、ピンマー専務理事(写真左)、共演者とともに記念撮影